

もう一度確認するけど、本当にこれで璃月の借金を
帳消しにしてくれるのよね？

刻晴さんが望むのなら、

投資規模を拡大するのもやぶさかではないさ。

言って、条件は何？

これから起こることに耐え抜くことができれば、
条件は満たされる。

分かった、効率から見てもそれが一番のようね、
そうしましょう。

早く始めましょう。

ほう、失敗した場合について聞いておかないのか？

必要ない、少しの間我慢するくらい、

璃月七星にとっては造作もないわ。

かの玉衡星がそう言うのなら、ああ……分かった。

何が玉衡星だ、自分の破産が仕組まれたものとも知らず、
薬を盛られたことにも気づいてないクセに。バカな女だぜ（笑）

恥ずかしいのか？璃月のみんなに今の刻晴さん
を見せられないとは惜しいなあ。

何とでも言いなさい、部屋が暑いだけよ。

はいはい、そうだねー

気持ち悪い、まさかこんな
おもちゃで動揺するなんて。

なんだか想像するだけで興奮してしまったよ、
すまん？（笑）

まだ仕事がたくさん残ってるの、早くしてくれる？

まったく、冷たい奴だな。



仕方ない、なら本番前に少し準備をしておこう、
でないとあまりに退屈だしな。

……必要のないものに感情を持ち込まないのが、
私のスタイルよ。

ふゆ
びゅい♡
ぴゅ♡
ふゆ

うん！♡

大丈夫、私は帝君に選ばれし者よ、
絶対に主導権は渡さないわ

上の口では強がってても、下の口は情熱的じゃないか、
璃月七星も嘘をつくんだなあ。

じ、冗談言わないで、これはただの汗……んっ……ハァ♡
そうかそうか、それは残念だ。

ど、どういうこと、普段オフィス
に隠れてもっと激しいのをしてるのに……
それなのに、声、声が……!!

ハイ——ストップストップ

え、どうして急に……うう……なら約束通り……

これは準備だって言ったよな？それに止めて

ほしくなさそうな顔してるけど、我慢は体に毒だぞ。

私は帝君の期待……あと璃月の未来も背負ってる、
から、そ、そんな低俗なものには

ちようど薬が完全に効いてくる頃だし、
このメスガキに分からせてやるか。

優しくするつもりだったが、それなら仕方ないな、
くらえ——！不意打ちだ——！

ちゅん♡♡

な、なにをするの？！やめて——！

あっ——！ダメえええ——！！！！

下の口が締まってきたぞ、やっぱり璃月の玉衡星は
大嘘つきなんだな(笑)✓

どちゅっ♡

どちゅっ♡

どほ♡

どちゅっ♡

アンツ♡……ハア♡……私が……感じてるわけ♡

じゃあおじさんがんばって、上の口も正直にしてあげるよ。

アツ♡ハアアア♡ダメダメダメ、イク、
またイっちゃううっっ——！



ほう……恐ろしい奴だ、溜まってるものを一気に出し切るとは。

派手に漏らしたな(笑)、やっと正直になったか、
刻晴ちゃんよおー

ハア……ハア……うっ……

帝君……ごめんなさい……

次は何をしようか、今の姿をみんなに
晒すのも悪くないな、ふふふ。

















ちゅん





